

福島レポート

2015.11.7～11.8

熊 順一（1974・経済）

郡山駅で集合し、バスの中では震災関連の DVD を見て、いわば事前学習をして訪れた浪江町。役場では復興の道筋についてのレクチャーを受ける。21000 人近くの人が住んでいた町は、今後は 5000 人を目標に町づくりをするという。海辺近くの請戸地域では、津波と原発の影響で破壊された家屋がそのままの状況で残っている。除染物を焼却して減容化する仮設焼却施設が今年の 7 月から稼働している。

今年の 9 月に避難解除された楡葉町は 7000 人の内 5%しか戻らないという。

今年鳴り物入りで再開した高速道路の一部は放射線量が高く、二輪車の走行が禁止されており、道路ぎわの線量計はけた違いの線量を示していた。

今年 8 月末での浪江町の宅地の除染率は 19%。今後除染作業者は 2000 人から 4000 人にふえるという。J ヴィレッジはサッカーの J リーグのメッカでしたが、今は東電の福島の復興本部と原発作業員の駐車場となり、ここから原発の現場にバスで行き、平日には 2000 台の自家用車が利用しているといひます。

宿泊したスパリゾートハワイアンズと訪問したアクアマリンふくしまの再開、復興のお話には共通した教訓を感じることができました。それは、リーダーシップとチームワーク、住民との結びつきの強さです。

ツアー中に配られた福島の農業についてのレポートはまだまだ風評被害の影響があり、生産量は上がっても、価格が全国平均に追いついていないこと等が示されていました。

福島の校友の皆さんを始め、貴重なお話をきかせていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

全国の校友の皆さん、是非一度被災地、福島を訪れ、現実を知り、現地の人の話を聞いてほしいと思います。バスの中で「政府は何もしない。全て東電まかせだ」といっていた現地の校友の話が印象に残るツアーでした。